

妊娠糖尿病 ～子どもの肥満や糖尿病～

妊娠糖尿病のお母さんから生まれたお子さんは、小児期や成人期に太りやすく、また糖代謝異常（2型糖尿病や境界型糖尿病）になりやすいといわれています。

「妊娠糖尿病のお母さんから生まれた児は、妊娠糖尿病ではないお母さんから生まれた児よりも、幼少期に 1.35 倍太りやすい」

「妊娠糖尿病のお母さんから生まれた児は、妊娠糖尿病ではないお母さんから生まれた児よりも、20 歳時に 6.7 倍糖代謝異常を発症しやすい」

ことが海外で報告されています。

海外の研究で、お母さんの体質（遺伝）だけでなく、妊娠中のお母さんの血糖値が高いことも、子どもの糖代謝異常の原因として報告されています。

お子さんの肥満や糖尿病の予防に、妊娠中の血糖値を良好に保つことが役立つのではないかと期待され、研究がすすめられています。

